

山口放送

活動名	テレビ放送の裏側を知ろう！
実施期間	令和7年1月
実施回数	学校訪問2回

【実施学校】

宇部市立船木小学校、岩国市立本郷小中学校

【事業実施の成果・課題】

- ・昨年度実施した授業のフォーマットを軸にして授業を組み立てました。作業負担は昨年以上に減ったため、余裕をもって臨めました。授業構成は大きくは変えませんでした。細かい部分で昨年の反省を生かしたブラッシュアップができたと感じています。（こちらが一方的にしゃべり続けるのではなく、考えてもらう時間を作る、質疑応答の時間を作る、など）
- ・昨年度の実績があるため、学校への授業実施相談も、よりスムーズにできました。
- ・今年度は、アナウンサーが「アナウンス辞典」を回し見せするなど、DVD やパワーポイントだけでなく「小道具」のチカラも発揮できました。撮影機材など、持ち込めるものはまだまだあると思うので、来年度以降、より魅力的な授業が開催できるよう知恵を絞りたいです。

【事業担当者・講師の感想】

負担をかけすぎない授業を今年度も展開することができました。コンパクトに面白くまとめられたDVD のチカラも大きいと思います。弊社の場合は、喋りのプロであるアナウンサーも講師として参加するので、子どもたちのリアクションはとても良く、質疑応答だけでもじゅうぶん盛り上がりました。先生方からの評価も高かったと感じています。

今回の授業では、(決して狙ったわけではないのですが)「アナウンサーってすごい！」という印象を子どもたち・先生方にかなり持ってもらえました。子どもたちが憧れを抱くことは、キャリア教育の面からも良いと思いますし、参加するテレビ局スタッフにとっても高いモチベーションにつながりますので、お互いにとってプラスになったのではないかと感じています。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

<船木小学校 5年担任 藤井教諭>

すてきな授業をありがとうございました。「プロの技」を間近で見ることができ、何度感動の声をあげてしまったか分かりません。特に印象に残ったのは、指定された時間に合わせて原稿を読んでもらったところです。40秒・45秒・35秒と3パターンの時間で読んでいただきましたが、どれも時間ぴったりで驚きました。さらに、3回とも一度もかまわずに読まれていて、さすがプロだと思います。

また、普段の番組の中でかんだときには「自分が苦手なところ」と原因を分析され、苦手克服のために練習されているというお話も勉強になりました。これは子どもたちの日々の学習等にも共通することだ

と思いました。何か失敗したりうまくいかなかったりした児童がいた際には「河野アナウンサーさんもおっしゃっていたように…」とこのお話を振り返り、分析 → 練習の流れで前向きに努力するよう励まそうと思います。

実際の番組では、番組終了の時刻に合わせて、即座に原稿を変更されるというお話も大変興味深く、日々頭をフル回転させながら職務を全うされていることを感じました。特別なことがない限り、必ず時間内に番組を終えられるというプロ意識を私も見習いたいと思いましたし、簡単に授業を延長しないことを決意しました。

短い時間でしたが、教科書には載っていないことをたくさん学ぶことができました。その道のプロの方の言葉には重みがあると身をもって感じました。子どもたちにとっても私にとっても学びの多い時間となりました。お忙しい中、遠方までご足労いただいたこと、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

<船木小学校 徳田校長>

日頃、何気なく見ているテレビニュースですが、アナウンサーの方をはじめ、ディレクターやスタッフの方々も含めたチーム体制で番組制作をされていることがよく分かり、大変勉強になりました。ニュースが分かりやすく伝わるように、言葉一つ一つを大切にされていることが理解できましたし、5年生の児童にも、テレビ局の仕事のすばらしさや苦勞が伝わったと思います。

現代の子どもを取り巻く状況は、「一人一台タブレット端末」です。テレビを見るだけでなく、ネットの動画や SNS から情報を得たり、自分から文字や映像などの情報を発信したりする機会が、日常的になっています。こうした状況の中、社会的責任のあるテレビ局の方々のお話が聞けたことは、大変有意義でした。今回学んだことを、児童の今後の生活に生かすとともに、教職員とも研修で共有したいと思います。この度は、ご多用の中、遠方の船木小学校までお越しいただき、本当にありがとうございました。

<本郷小学校・平野教諭>

テレビで拝見するアナウンサーの方や実際に番組を制作されているディレクターの方にお話をしていただくことで、子どもたちが「本物」に触れることのできる貴重な機会になりました。同日に道徳で「相手の立場を理解することの大切さ」について考えたのですが、ニュースを制作するときにも「一方の意見だけ取り上げないこと」を意識されていること知り、身近な友人関係だけでなく、社会的にも大切な考え方なのだと、子どもたちは実感できたようです。

<本郷小学校・児玉校長>

たくさんの情報を調べ、時間を費やして授業準備をしたところで、教員が行う授業ではプロが語るリアリティに迫ることは到底できません。情報氾濫社会に生きる子どもたちが、誤った情報を見抜く賢い視聴者になることを願ってやみません。